

脳天大神龍王院

脳天大神龍王院は、金峯山寺から灯籠が並ぶ長い石の階段を下ったところにある深い谷底の急流の上に建っています。

金峯山寺の高僧が修行の道場の建設を始めたとき、頭が割れたへびの死体に出会いました。哀れに感じて、彼はへびに経を唱えてやり、丁重に葬りました。その後、へびが夢の中に繰り返し現れて、僧侶の親切な行為に感謝しました。僧侶はやがて、へびが金峯山寺の蔵王堂に祀られている本尊、蔵王権現の別の姿であることに気付きました。

この脳天大神龍王院は、人間のすべての思考の座である頭と脳に関連するすべてを司る脳天大神にちなんで名付けられました。多くの人々が頭痛やその他の頭に関連する悩みからの解放を祈るために訪れ、学生は学業の成功を祈りにやってきます。この寺院では、入学試験の準備をする学生のために、1月中旬から2月下旬まで特別な祈禱を開催しています。現在の建物は1951年に建てられました。